

シングルレバー単水栓上部
PR171-13・PR171G-13

施工・取扱説明書

施工、ご使用前にこの説明書をよくお読み
のうえ、正しく施工、ご使用ください。

お客様へ

お読みになった後は、お使い
になる方がいつでも読める所
に必ず保管してください。

工事店様へ

施工後、この説明書をお客様
へお渡しください。

注意

完全に止水しない場合は、シ
ングルレバー単水栓上部をはずし
袋ナット内水栓側の薄いパッキ
ン1枚を、マイナスドライバー
等で取り除いてください。

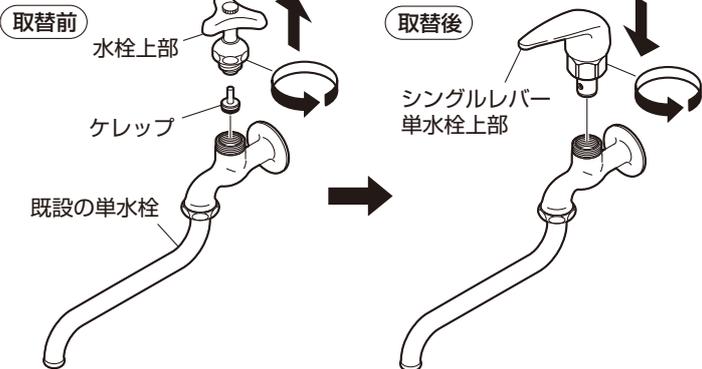


付属の水栓側の
薄いパッキン

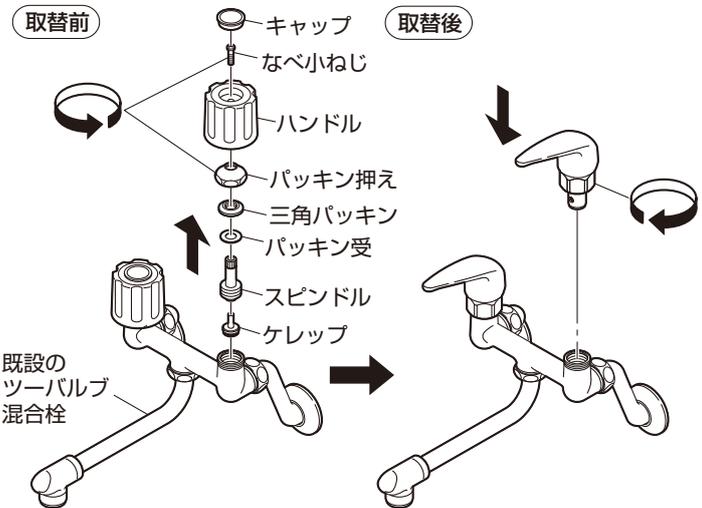
本製品について 各部の名称

- JIS製品、同等品の水栓上部と交換して、シングルレバー水栓になります。
- 混合栓の使用については、混合栓側の「施工・取扱説明書」をお読みください。

●単水栓の場合



●ツーバルブ混合栓の場合



本製品について 施工・ご使用に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性
があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って
ください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿
ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

用語および記号の説明

- 警告** ……「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な
状態が生じる事が想定されます。」
- 注意** ……「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うまたは物的損害が
発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
- ⚠ ……「注意しなさい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。
必ずお読みになり、記載事項を守ってください。)
- ⊘ ……「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
- 🔧 ……「分解してはいけません!」
- 👉 ……「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

警告

- ⊘ 小さいお子様だけの使用は、避けてください。
やけど・けがをするおそれがあります。

注意

- ❗ 本製品は、今お使いの水栓の本体を使用して、新しい水栓上部
を取付けます。
水栓上部に腐食、ひび割れ、漏水などがないことをお確かめの
うえ、取付けてください。
- ⊘ 修理技術者以外の方は、製品内部を分解しないでください。
故障や水漏れの原因になります。
- ⊘ 同梱の部品以外は使用しないでください。
故障や水漏れの原因になります。
- ⊘ 給湯温度は70℃より高温で使用しないでください。
70℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、
水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生
のおそれがあります。
- ⊘ 給湯に蒸気を使用しないでください。
器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

- ⊘ 本製品を水栓に取付ける前にレバーを上下に
動かさないでください。
部品が分解・落下するおそれがあります。
万一が一部が落下した場合は、部品を時計回
りに回しながら奥まで押し込んでください。
参照：器具の取付け

- ⊘ 製品に強い力や衝撃を与えないでください。
故障や漏水の原因になります。

- ❗ 洗濯機用水栓や、先止めタイプの
水栓には使用できません。
器具が破損し、漏水するおそれあ
ります。

- ❗ 凍結が予想される場所でご使用になる場合は「寒冷地の場合の
水抜方法」を参照の上、凍結予防を確実に実施してください。
部品が破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のお
それがあります。参照：寒冷地の場合の水抜方法

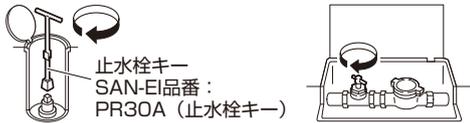
- ❗ 凍結が予想される際は、配管と水栓
の水抜き操作を同時に行ってください。
凍結破損で漏水し、家財などを濡ら
す財産損害発生のおそれがあります。
参照：寒冷地の場合の水抜方法

- ❗ レバー操作の急閉止は、配管からの
漏水を起こす事がありますので、
ゆっくり操作してください。
漏水で家財などを濡らす財産損害発
生のおそれがあります。

- ⊘ レバー背面のネジは取りはずさな
いください。
一旦取りはずすと、正しく組付けら
れなくなるおそれがあります。

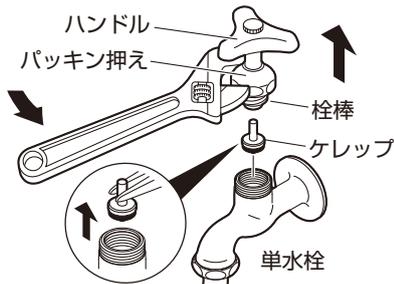
施工について 施工手順

- 1 止水栓を閉めます。
水栓のハンドルを開いて、止水の確認をします。



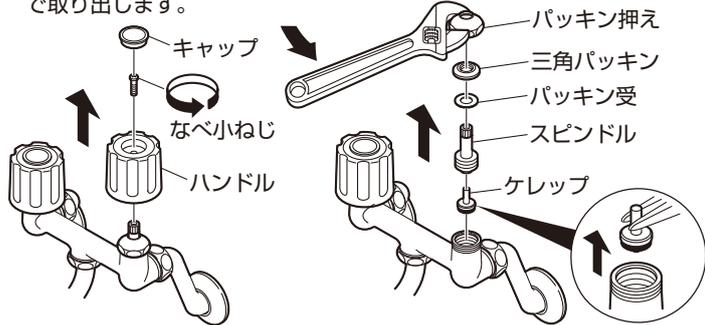
- 2 水栓の上部をはずします。

- 単水栓の場合
パッキン押えをスパナなどでゆるめ、ハンドルをまわし、栓棒をはずします。
単水栓内部にケレップが入っている場合は、ピンセットなどで取り出します。



- ツーバルブ混合栓の場合

1. ハンドルのキャップ、ねじをはずし、ハンドル部を抜き取ります。
2. パッキン押えをスパナなどでゆるめ、スピンドルをまわしてはずします。混合栓内部にケレップが入っている場合は、ピンセットなどで取り出します。



- 3 水栓内の掃除をします。
水栓内のゴミをきれいに取除きます。



- 4 シングルレバー単水栓上部を取付けます。
シングルレバー単水栓上部を水栓本体に差し込み、袋ナットを締付けます。

袋ナット

2箇所にパッキンが入っていることを確認してください。

パッキン (2箇所)

注意

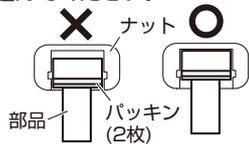
袋ナットは、3.5N・mの締付トルクを目安に締付けてください。
強く締めすぎると、内部の樹脂が割れて、漏水の原因となります。

注意

- 本製品を水栓に取付ける前にレバーを上下に動かさないでください。部品が分解・落下するおそれがあります。
万が一部品が分解・落下した場合は、部品を時計回りに回しながら奥まで押し込んでください。



- 部品は、あたりまでしっかりと押し込んでください。
●部品に付いているパッキン (2枚) も、一緒に奥まで押し込んでください。



- 部品を扱う際は、傷をつけないよう注意してください。

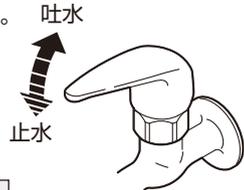
- 5 ガタツキ・水漏れをチェックします。
接続後、各部にガタツキがないか必ず確認してください。ガタツキの確認後、止水栓を開いて各部に水漏れがないか必ず確認してください。水漏れがある場合は、もう一度はじめからやり直してください。

- 上部からの水漏れが多い場合
袋ナットを増し締めしてください。
- 完全に止水しない場合
シングルレバー単水栓上部をはずし袋ナット内水栓側の薄いパッキン1枚を、精密ドライバー(マイナス)等で取り除いてください。
※奥のパッキンは、傷をつけないよう注意してください。

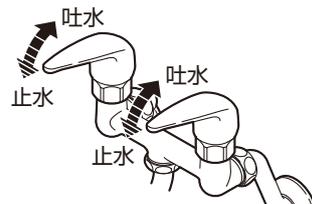


ご使用について 吐水・止水

レバーを上げると吐水し、下げると止水します。吐水レバーを上げるほど水量が多くなります。レバーは左右に回転します。



- ツーバルブ混合栓の場合



注意

- 湯を使用する時は水側レバーを開いてから徐々に湯側レバーを開き、温度および吐水量を調節してください。
湯側レバーを先に開くと高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。
●湯側と水側でレバーの操作感が異なる場合がありますが、故障ではありません。

※ガス瞬間給湯器の場合
吐水量を少なくして使うと、給湯器が着火しない場合があります。

使用後

必ず湯側レバーから閉めてください。次に使用すると、器具内に滞留した高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

凍結予防について 一般地の場合

一般地でも凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

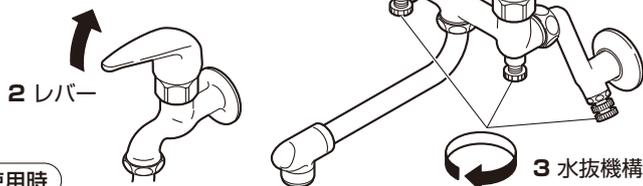
- 水栓より少量の水を出してください。(目安として1分間に牛乳ビン1本程度)
●配管などに保温材を巻いてください。
●屋内の窓を閉めるなどして水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。
※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。



凍結予防について 寒冷地の場合の水抜き方法

凍結のおそれがある場合には、下記の方法で水抜きをしてください。

- 1 配管の水抜き栓を操作する。
2 レバーを中央位置で上げる。
3 水栓本体側に水抜き機構が付いている場合は、水抜き機構を操作する。



再使用時

水栓本体側に水抜き機構が付いている場合は、各水抜き部が確実に閉まっているか確認してから、通水してください。

日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についた汚れを放置しておくと、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

- 柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
●汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

注意

次のものは使用しないでください。
変色や傷みのおそれがあります。

- 酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
●ナイロンたわし・メラミンフォームなど

●洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

すぐ拭く

- 漏水した場合の処置

漏水した場合は元栓、または止水栓を閉めてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。そして専門の業者に修理を依頼してください。